

実証の背景

高齢者の生活領域において、見守り・対話・観察の機会が構造的に不足

高齢者の独居・核家族化

体調や心理状態の小さな変化に家族が気づきにくい

日常会話・社会接点の減少

会話の不足により、孤立感や認知機能低下につながる

介護・看護人材不足

定期的な対話や観察の頻度・質が低下し、見守りやケアの提供が困難に



これらの課題を解決するために
「会話を通じて、日常の変化に寄り添い、早期に気づく仕組み」が必要

マゼラン湘南佐島での実証概要

対話型AIアバターとの日常的な自然会話を実施

実施場所	マゼラン湘南佐島
実施目的	対話型AIアバターとの自然会話を通じて、受容性・継続性・会話品質を検証
実施期間	2026年4月14日 ～ 4月24日(4月19日を除く)
対象	入居者10名 + スタッフ1名
取得セッション数	86件
取得アンケート数	85件

マゼラン湘南佐島での実証方法

対話型AIアバターとの日常的な自然会話を通じて、会話データを収集・分析

毎日自由に会話を実施

- ・利用者情報を学習（プロフィール登録、記憶機能）
- ・毎日の状態を会話で聞き取り（ルーティン会話）
- ・趣味や家族の話題にも自由に応答
- ・脳トレなどのコンテンツも提供

会話データをもとに記憶・分析を実施

- ・会話履歴をもとに継続性のある自然な対話を実施
- ・会話の特徴や感情の変化を分析

受容性確認のためアンケートを取得

- ・実施前に事前アンケートを取得
- ・実施期間中は毎日アンケートを取得
- ・実施後に事後アンケートを取得
- ・AIとの会話に対する受容性・継続性・満足度などを確認

対話型AIアバター（対話イメージ）



※画面・アバターはイメージです

AIとの自然な会話を日常に取り入れ、その受容性・継続性・会話の質を検証

実証サマリー

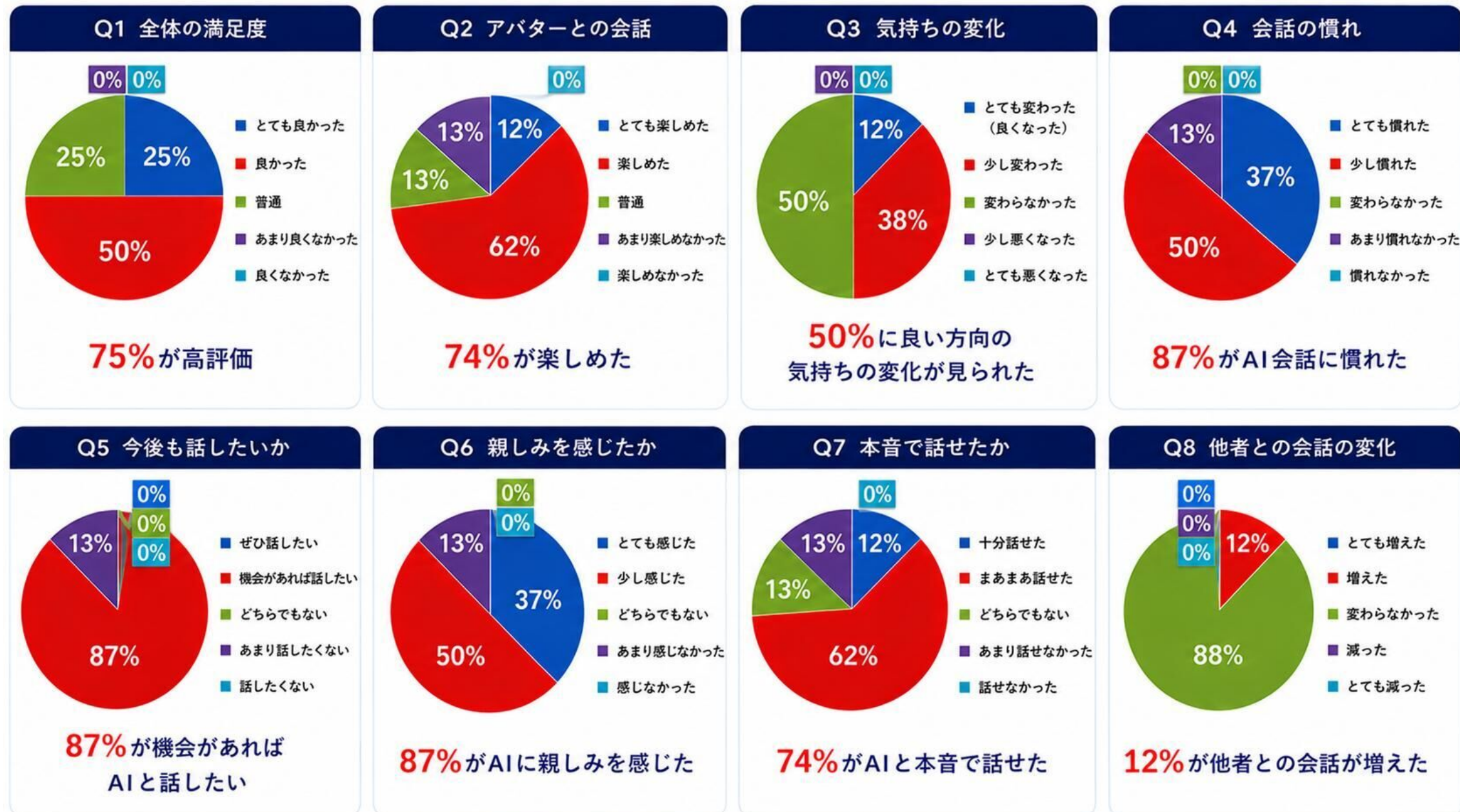
多くの方に継続的に参加いただき、有用性と改善点を確認



▶ 対話型アバターとの自然な対話は概ね受け入れられ、継続利用の意向も高いことが確認できた。
一方で、「会話のテンポ」「AIが話しすぎる」等の改善ニーズも明確になった。

事後アンケート結果 1/2

多くの方がAIとの会話にポジティブな体験をし、
親しみや継続意向も高い結果



事後アンケート結果 2/2

一方で、「推奨度」と「適合度」の間にはギャップがあった

No.	Q9 推奨度 (0-10)	Q10 適合度 (0-10)	事前AI印象（自由記述）
1	3	8	少し興味がある
2	2	3	楽しそう、少し興味がある
3	9	8	少し興味がある
4	0	0	よくわからない
6	5	3	少し興味がある
8	6	4	楽しそう、少し興味がある
10	8	9	少し興味がある
11	5	7	少し興味がある
平均	4.75	5.25	
最大	9.00	9.00	
最小	0.00	0.00	

参考：6点以上を「比較的高評価」として表示（推奨度・適合度ともに）

推奨度（人にすすめたいか）

平均 **4.75** /10

最大 9.00
最小 0.00

適合度（自分に合っているか）

平均 **5.25** /10

最大 9.00
最小 0.00

今後の展開

Phase1で得られた気づきをもとに、対話設計と個別化を改善し、
高齢者の日常に自然に寄り添う会話体験を目指す



「会話できるAI」から「高齢者の日常に寄り添い、
自発的な健康行動とWell-being向上を支える会話体験」へ